

三豊総合病院における「退院後の処方適正化活動」へのご協力のお願い
~2022 年 1 月~2025 年 12 月に三豊総合病院へ入院された皆さまへ~

研究機関名 三豊総合病院

主任研究者 三豊総合病院 薬剤部 主任 陶山 泰治郎

分担研究者

所属:三豊総合病院	薬剤部	職名:薬剤部長	氏名:加地 努
所属:三豊総合病院	薬剤部	職名:副薬剤部長	氏名:篠永 浩
所属:三豊総合病院	薬剤部	職名:薬剤師	氏名:加福 夏織
所属:三豊総合病院	薬剤部	職名:薬剤師	氏名:十川 友那
所属:三豊総合病院	薬剤部	職名:薬剤師	氏名:石原 瑛太郎
所属:三豊総合病院	薬剤部	職名:薬剤師	氏名:高橋 公子
所属:三豊総合病院	薬剤部	職名:薬剤師	氏名:渡邊 舞
所属:三豊総合病院	薬剤部	職名:薬剤師	氏名:沖廣 絵里子
所属:三豊総合病院	薬剤部	職名:薬剤師	氏名:石井 照樹
所属:三豊総合病院	薬剤部	職名:薬剤師	氏名:大嶋 成奈優
所属:三豊総合病院	薬剤部	職名:薬剤師	氏名:森黒 唯
所属:三豊総合病院	薬剤部	職名:薬剤師	氏名:田岡 優樹

1. 研究の意義・目的

地域医療において、入退院時の薬物療法の継続性を確保するためには、病院と保険薬局の間で正確かつ十分な薬剤情報を共有することが不可欠である。しかし、現状では入院中の処方変更理由や治療方針が薬局薬剤師に十分に伝わらず、処方不整合や意図しない薬剤再開が生じることが報告されている。薬剤管理サマリーは、入院中の経過や処方意図を包括的に伝達できる情報共有ツールであるが、その有用性を客観的指標に基づいて評価した研究は限られている。薬局薬剤師の疑義照会は、薬学的介入の質と処方適正化を反映する客観的指標であり、サマリートの効果を評価する上で有用である。本研究は、薬薬連携における情報共有の実効性を明らかにし、地域における安全で継続的な薬物療法の実現に寄与する点で意義が大きい。また、本研究の目的は薬剤管理サマリートの使用が薬局薬剤師の疑義照会行動および処方適正化に与える影響を、傾向スコアマッチング法を用いて客観的に評価することである。具体的事象として、サマリー使用の有無による疑義照会による処方変更割合の差異を明らかにするとともに、処方不整合や臨床的要因など、疑義照会の契機における特徴を検討することで、サマリーが薬局薬剤師の介入をどのように支援し、処方適正化に寄与するかを明らかにすることを目的とした。

2. 研究の方法

1) 研究対象と方法：

本研究は、退院後に当院外来を受診した患者を対象とした後方視的観察研究であり、薬剤管理サマリーの使用が薬局薬剤師の疑義照会行動および処方適正化に与える影響を検討した。対象は、2022年1月から2023年12月の期間に当院を退院し、退院後90日以内に保険薬局で調剤を受けた患者とした。入院中に薬剤が処方されていない患者、退院後に当院外来を受診していない患者、調剤情報の取得が困難であった患者は除外した。薬剤管理サマリーは、入院中の薬剤変更理由、治療経過、退院時の薬剤調整方針、フォローアップの必要性などを記載した情報共有ツールであり、病院薬剤師が退院時に作成し、地域の保険薬局へ提供した。サマリー使用の有無に影響し得る交絡因子を調整するため、年齢、入院日数、退院時薬剤数、外来受診時薬剤数、内科受診割合を用いて傾向スコアを算出し、1:1最近傍法(caliper 0.2)によるマッチングを行った。統計解析には χ^2 検定、Mann-Whitney U検定を用い、有意水準は $p < 0.05$ とした。解析にはEZR (Easy R)を使用した。

2) 調査期間：

治験審査委員会承認日～2028年3月31日

3) 情報の保護：

個人情報とは全て連結不可能匿名化し、個人の特定ができない状態で保存します。個人情報が特定されるような情報は含まれておりません。研究への情報提供は皆さまの自由意志によります。不同意・撤回の場合には、研究責任者に申し出て下さい。不同意・撤回の場合でもサービス提供に不利益は生じません。不同意・撤回がない場合には同意があったとみなし、研究に使用させていただきます。

4) 利益相反：

今回の研究で利益相反は生じません。

不明な点やご質問等がありましたら、下記の連絡先までお問い合わせください。

「問い合わせ先・連絡先」

〒769-1695

香川県観音寺市豊浜町姫浜 708

三豊総合病院 薬剤部 主任 陶山 泰治郎

電話番号 0875-52-3366